

難消化性デキストリンのヒト便通に及ぼす影響

【要約】

難消化性デキストリン(PF)の便通に及ぼす影響について検討する目的で、PF摂取後の糞便重量、糞便水分量、排便状態、便性状、胃腸症状等について調べた。

1. PF10～60g摂取後の便性状は大半がバナナ状～半練状であり、下痢発症のED50値は2.4g/kg体重と推定された。また、臨床問題となるような胃腸症状は認められなかった。
2. PF35g/日、5日の連続摂取で、糞便重量、排便回数の増加が認められたが、糞便水分含有率は変化がみられなかった。
3. PF5～10g/日、5日の連続摂取で、排便状態の改善が認められた。

・
・
・
・
・
・